

令和5年度マイスター・ハイスクール事業 成果発表会 講評シート

学校名(宮崎県立延岡工業高等学校)

1. 取組についての評価

- ①県内の工業科設置校に共通に設置されている「機械科」での指導改善は、他校への展開を考えると妥当と考えられます。
今回は実習内容の改善が中心であったが、是非この機会にCEOや産業実務家教員を加えて機械科指導内容全体の総合シラバスを作成していただきたい。その中で、本県産業で必要になる先端技術の検討や、基礎知識・技術と先端技術を繋ぐ学びの順序性、さらに実習と座学の融合等をご検討頂ければ、大きな前進となることでしょう。
- ②オープンバッジの取得や「ものづくり教室」は生徒の学び意欲向上につながる良い企画として評価したい。継続を期待しています。
- ③マイスター・インターンシップについては、一定の成果があったものと思います。
今後の進展を考えると検討して頂きたいのは、年間曜日指定で実施するか、まとめ取りにするかです。就業体験中心か、技術修得を目指すかでもあります。生徒と企業が、WinWinになるようなインターンシップを期待しております。

2. 今後の課題と考えられること

- ①今回テーマとした「長期的な人材育成」のためには、工業高校生を採用している企業群のニーズと、本校で修得する知識・技術レベルとのすり合わせが欠かせないと思います。
この3年間の取り組みを踏まえて、宮崎県教育委員会と県の産業推進担当部局が協働して、学校と企業の双方のニーズを協議できる体制を作って頂きたい。幸い、今年度「宮崎県デジタル人材育成コンソーシアム」並びに「みやざき半導体関連産業人材育成等コンソーシアム」が設立されたようですので、高校生へのDX技術指導体制についてご検討いただければと存じます。
- ②その際、高校生のレベル向上と企業の成長とを関連付けた成長サイクルを念頭に置いて頂き、今ここで生徒に学ばせておくべきことは何なのか？それは学校だけでできるのか？をご議論頂ければ幸いです。
学校だけでは難しい知識・技術があれば、指導できる企業を探し出し、教育システムに組み込む仕掛けが必要になってくるのではないかと思います。この機会に是非ともご検討いただきたい。